

TZ ほんの窓

第 7 号 (2005.7.11) 一橋大学附属図書館高本善四郎氏図書助成コーナー「本の紹介」班

本を残す 本を伝える

～書籍修復の世界～

私たちが本を手にとる目的、それは本の中身すなわち知識・情報を得ることにあります。私たちはいつも本の中身を意識し、批評、吸収し、自分自身の糧としています。しかし、本に含まれる膨大な知識の量、その知の砦としての堅固さに比べ、物としての本がいかに弱い存在か考えたことがあるでしょうか。書物はいつも様々な危険にさらされています。火災、水害、虫害、取扱いの不慎による破損など、紙あるいは古書においては革の表紙などの使用素材による宿命的な危険です。

このような書物の宿命に対し立ち向かっている人々とその活動を、今回ご紹介します。



1966年11月4日、イタリアのアルノ川が氾濫、流域が大きな被害を受けました。特にフィレンツェでは文化財が壊滅的な被害を受け、図書館・文書館もその難を逃れることはできませんでした。ダンテ、ペトラルカなどの手稿も含む貴重な文書・書物の膨大な量が泥水の下に埋まり、世界中の修復家がかけつけ対応しました。緊急的な処置を迫られる多くの書物を前に話し合われた対応方法が、その後の書物修復・コンサベーションの原則となりました。

一橋大学社会科学古典資料センター内には、国立大学では唯一の修復工房があり、古書修復の一翼を担っています。今回書物修復に関する本の紹介と併せて、この工房における活動も紹介します。これらの活動も「フィレンツェ以後」の考え方・技術の上になったものです。

書物の修復とは

「本が壊れた」と聞き、まず思い浮かべるのはページの破れや表紙の分離、とじ糸の切断などだと思いますが、古書を多数所蔵する図書館などにおいてはそれに加え、紙の酸性化や革の劣化、またカビや虫害など色々な問題に対処していかなければなりません。このコーナーではその修復に携わる職人の世界や、図書館において必要不可欠な「利用のための資料保存」に関する本を紹介します(関連資料 参照)。



『古書修復の愉しみ』 アニー・トレメル・ウィルコックス著

(市川恵里訳 2004年/白水社)

大学附属印刷所で働いていた著者が、ある「書籍修復家」と出会い、弟子入りし、そして職人として成長していく過程を綴った自伝的エッセイ。壊れた古書がどのようにして修復されていくのかという工程に加え、一冊一冊手作りされた古書の魅力、その製本・修復の過程で必要な道具について、そして技

術を伝えていく職人の師弟関係など様々なエピソードが盛り込まれ、著者であるアメリカ人女性の目を通して、色々な面から「古書修復」の世界を覗くことができます。
「書籍修復家」という日本ではあまり馴染みのない職業への興味をそそられる一冊。

書物の敵 ~本を壊すもの~

書物は、言語が具現化し物質となった為に、壊れる宿命を併せ持っています。火災・水害を始め、埃やごみ、紫外線、紙やニカワを食べる虫、乾燥と湿気、カビ、化学物質や酸性化による紙・革の劣化・・・これらの災害、保存環境、利用時に発生する破損などがその要因としてあげられます。本を残していく為に実際の修復作業に加え、様々な予防策、保存環境の改善や研究が進められています。その積み重ねの上に、今日私たちが受け継ぐ莫大な書物の遺産が存在し得るのです。日頃の本の扱い方ひとつに注意する事も、本を守る一歩なのです。



『書物の敵』ウィリアム・ブレイズ(高橋勇訳 八坂書房、2004年 0200-394)
著者ブレイズは17世紀イギリスの印刷工から出発、著名な書誌学者となった人物です。この本は火、水などの項目別に、数々のエピソードや先人の引用を交えて、様々な被害に遭った書物のその後を含め、紹介しています。1879年の初版から1888年の改訂版を基に、注釈を加えながら今もなお読み継がれている名著です。



『図書館の興亡 - 古代アレクサンドリアから現代まで -』
マシュー・バトルズ(白須英子訳 草思社、2004年 0100-359)
図書館は古代から存在し、時の政府の勢力範囲や宗教の興亡によって、その盛衰を繰り返してきました。政治や宗教にとって、いかに書物が影響力を持っていたかを、壮大な歴史背景を辿りながら紹介し、それに加えて石版、粘土板、卷子本、写本など、時代と地域ごとに見られる本の形態の変化なども知ることができます。

本の構造を知る

紙に文字が印刷され束ねられて表紙をつけた物を、私たちは「本」として認識しています。しかしこの形は昔から同じだったわけではなく、これからずっと同じというわけではありません。本の形や構造は時代や社会など人を取り巻く環境によって変化し続けてきました。本の扱われ方や構造を知ることにより、私たちはその時代の社会状況を推し量ることもできるのです。



『西洋の書物工房』貴田 庄(芳賀書店、2000年 0200-208)
初期からの本の構造や、製本に使われる革やマーブル紙などの材料、本の小口に金箔をはる技術などが豊富な写真・図版とともに紹介されています。



『美しい書物の話』アラン・G・トマス(小野悦子訳 晶文社、1997年 0200-358)
ヨーロッパの書物の製作における4つの様相(中世の写本・初期の印刷術・彩色図版のある本・プライベート・プレス)に光をあて、理想の書物をつくらうとする人々と、それをとりまく社会が描かれています。

書籍修復の現場

《一橋大学社会科学古典資料センター・貴重書保存修復工房》

一橋大学には 1995 年に開設した国立大学では唯一の本の保存修復工房があります。この工



房は、1993 年に着手したカール・メンガー文庫マイクロフィルム化・目録改訂・保存事業を契機として開設され、古典資料センター内の資料の保存修復作業を中心に、図書館や各研究所などのサポートも行っています。2001 年発行のスタディー・シリーズ No.47『西洋古典資料の組織的保存のために』（一橋大学社会科学古典資料センター、2001 年 Azb-3A-47）はその工房での実際の作業や、他大学の図書館員にむけた講習会の内容をもとに作られた、図書保存修復の手引きです。このスタディー・シリーズの保存作業ガ

イドに沿って、少し工房の様子や作業内容を紹介します。

工房に来た本はまず、一冊一冊その構造や劣化状態などが調べられ、細かくカルテに記入されます。



書見台

本の閲覧の時に使う台で、大・中・小の 3 種類あります。素材には中性紙を使用。

劣化調査

下のようなカルテを一冊につき一枚作り、現在の本の状態を細かくチェックします。そしてその本に修復作業が必要か、またどのような処置をするかを処方します。

書名	著者	発行年	表紙	裏紙	目次	本文	その他
西洋古典資料	カール・メンガー	1993	紙	紙	紙	紙	紙
西洋古典資料	カール・メンガー	1993	紙	紙	紙	紙	紙
西洋古典資料	カール・メンガー	1993	紙	紙	紙	紙	紙
西洋古典資料	カール・メンガー	1993	紙	紙	紙	紙	紙
西洋古典資料	カール・メンガー	1993	紙	紙	紙	紙	紙
西洋古典資料	カール・メンガー	1993	紙	紙	紙	紙	紙
西洋古典資料	カール・メンガー	1993	紙	紙	紙	紙	紙
西洋古典資料	カール・メンガー	1993	紙	紙	紙	紙	紙
西洋古典資料	カール・メンガー	1993	紙	紙	紙	紙	紙
西洋古典資料	カール・メンガー	1993	紙	紙	紙	紙	紙

書名	著者	発行年	表紙	裏紙	目次	本文	その他
西洋古典資料	カール・メンガー	1993	紙	紙	紙	紙	紙
西洋古典資料	カール・メンガー	1993	紙	紙	紙	紙	紙
西洋古典資料	カール・メンガー	1993	紙	紙	紙	紙	紙
西洋古典資料	カール・メンガー	1993	紙	紙	紙	紙	紙
西洋古典資料	カール・メンガー	1993	紙	紙	紙	紙	紙
西洋古典資料	カール・メンガー	1993	紙	紙	紙	紙	紙
西洋古典資料	カール・メンガー	1993	紙	紙	紙	紙	紙
西洋古典資料	カール・メンガー	1993	紙	紙	紙	紙	紙
西洋古典資料	カール・メンガー	1993	紙	紙	紙	紙	紙
西洋古典資料	カール・メンガー	1993	紙	紙	紙	紙	紙



劣化調査の後、必要な本には処置を施します。



保革油を塗る

表装の革が傷んでいる本には目止め用セルローズ、油、保護のためのアクリルポリマー・・・などの保革作業をします。



本の採寸

箱を作る時など、このような道具で本の高さ・幅・厚みを測ります。



保護ジャケット

本の状態にあわせて厚・薄中性紙でジャケットをかけます。

保存箱

傷んでいる本などには、それぞれの本にあわせた箱を中性紙ボードで作ります。

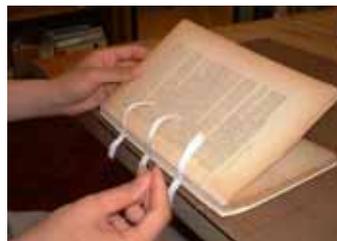


紙の修理

修理にはでんぷんを煮て作る生麩のりと、数種類の薄い和紙を使います。

保存製本

本文だけの資料や、劣化のために閲覧が困難なものなどは、簡単な製本をすることもあります。



貴重書保存修復工房では、ここに紹介した作業に加え、書籍の製本・修復の専門家に指導を受けながら、様々な予防的保存作業と修復を行っています。

関連資料

『防ぐ技術・治す技術 - 紙資料保存マニュアル - 』

(日本図書館協会・編集ワーキング・グループ編 2005年 0100-396)

『図書館員のための図書補修マニュアル』小原由美子(教育史料出版会、2000年 0100-209)

『図書館と資料保存 - 酸性紙問題からの10年の歩み - 』

安江明夫・木部徹・原田淳夫(雄松堂出版、1995年 Ag-937)

『書物の敵』庄司浅水(講談社学術文庫 1990年 0800-34)

『悪魔に魅入られた本の城』オリヴィエーロ・ディリベルト

(望月紀子訳 晶文社、1987年 0200-388)

『手製本を楽しむ』柄折久美子(大月書店 1984年 0200-397)

『ABC of Bookbinding』Jane Greenfield(Oak Knoll Press、1998年 0200-87)

『The Restoration of Leather Binding』Bernard C. Middleton

(Oak Knoll Press、1972年 0200-205)

『目でみる本の歴史』庄司浅水・吉村善太郎(出版ニュース社、1984年 Ag-656)

『本の都市リヨン』宮下志朗(晶文社、1989年 Ag-820)